

彗星だより

暫く彗星だよりが御無沙汰して終つたけれども彗星が御無沙汰した譯ではない

1927 f 彗星 今迄発見せられた新彗星が何れも 90° に近い傾斜角をもつてゐたのでこの彗星もどうかと便りにならぬ期待をもつて見たが段々その軌道が計算せられるのを見るに全く期待裏切られたのである。尤もこの彗星の観測は甚だ少くなかつた模様で、マートン氏も私信でそれを大に不思議がつてゐる。

ボンターハンセン嬢の計算による

近日點通過時 1927 6月14日325萬國時
近日點引數 $209^\circ 56' 08''$
昇交點黃經 $69^\circ 19.40'$
傾斜角 $13^\circ 25.91'$
近日點距離 1.2935天文單位

さいふ譯であるが、その後クロンメルン氏が計算したところによるとこのゲール彗星は18,08917年の周期をもつた周期彗星であることが知れたのである。その軌道要素は

近日點通過時 1927 6 14.44366 萬國時
近日點引數 $209^\circ 32' 37.79''$
昇交點交經 $67^\circ 25' 39.40''$ } 1927.0
傾斜角 $11^\circ 47' 30.47''$
橢圓率 0.780987
近日點距離 0.995269

さいふ譯で今後の位置は

赤經(1927.0) 赤緯(1927.0)
1927 12 31.0 0h 15m 12s $-7^\circ 45.9'$
1928 1 8.0 23 40 $-6^\circ 14.7'$
16.0 32 22 $-4^\circ 46.0'$
24.0 41 17 $-3^\circ 19.8'$
2 1.0 50 25 $-1^\circ 56.0'$

1927 g 彗星の発見 周期彗星であるシヨウマス彗星はその発見が大層アヤマれてゐたが、この道での練達の士であるザンピースアルツク氏によつて発見せられた。即ち10月4.4325 萬國時12等級の星として赤經 $11^h 6^m 2.8^s$ 赤緯 $+12^\circ 51' 57''$ さいふ位置に発見したのである。そして夫れから導いた近日點通過の時刻が1927年10月1.43 萬國時とあつて兼てマートン氏が算出してあつた、日附は僅か2時間の差違であつた。

エンケ彗星1927hの発見 1928年2月に近日點を通過する筈であるエンケ彗星は又々ヤーキースのザンピースアルツク教授によつて発見せられた。この前1924年に出現のときにも同氏によつて発見せられたのである。此度は11月13日のことで萬國時1時19.5分の位置が赤經 $22^h 57^m 8.8^s$ 赤緯 $+8^\circ 54' 13''$ であつた。そして當時の光級は16 m さいふのであるから随分エライもので周期彗星の発見者としては世界随一といつて差支へないであらう。實はこの発見は電報で通報せられなかつた爲めに我々はこの通知が届いたのは12月初めであつた。ところが、それ以前11月22日の電報でベルゲドルフのシュワスマンによつて新彗星が発見せられたことが報導せられたのである。それでこの彗星が1927hであると考へてゐたのであるが、之は **1927 i 彗星** と呼ぶべきである。

その後の通報によると、11月15日にシュワスマンとワハマン兩氏が発見したもので萬國時21時33.3分に於ける位置は赤經 $1^h 32^m 12^s$ 赤緯 $+20^\circ 53'$ である。當時の光級は14であつた。

1927 j 彗星 12月18日に突然電報があつてコペンハーゲンから新彗星スクエレルプの軌道要素が報導せられた。實はこの彗星の発見通知がまだ到達してゐなかつたので、彗星の報導を定めるのには少くとも相當の間隔を置いた三回の観測の必要があるのでまづ突然さいふ感じを得たのである。最初の頃は我々から見えない位置であつたらうからそれはよいとして、更に電報の型式を破つて Magnitude 2 さいふ文字が附加へてあつた。二等級の彗星!! 驚く値があるさいふものである。20日の夕方やつと見へる筈ださいふので珍らしく天氣になりかけた西の夕空を探したけれども見當らない。薄雲を通して4—5等級の星が見えたが彗星は遂に見えなかつた。しかるにその後報導せられたラブラタのドーソン氏の軌道要素によると前のウド氏のものに比べて豫報位置が $15^\circ - 6^\circ$ も違つてゐるのである。22日から曇雨天で探索するに由がない。(1927. 12. 23. 上田)